

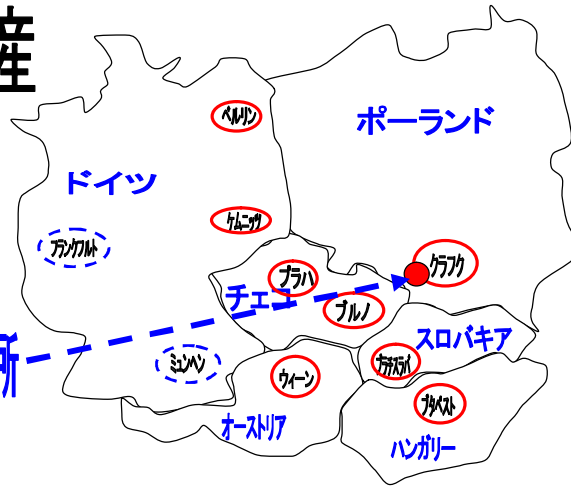
中欧6カ国旅行_8ヶ所の世界遺産めぐり_2013年4月 ポーランド・アウシュヴィッツ強制収容所。

作成者: 岩崎君男 / Mr. Kimio Iwazaki
Date: June 2013
Numazu-City
Shizuoka-pref. JAPAN
web: <http://www.iwazaki-kimio.com>

負の世界遺産

基本情報の出所: ウィキペディア(Wikipedia)
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A2%E3%82%A6%E3%82%B7%E3%83%A5%E3%83%B4%E3%82%A3%E3%83%83%E3%83%84%E3%83%84>

アウシュヴィッツ強制収容所



負の世界遺産:

・アウシュヴィッツ=ビルケナウ強制収容所(独: Das Konzentrationslager Auschwitz-Birkenau、波: Konzentrationslager Auschwitz-Birkenau)は、ドイツが第二次世界大戦中に国家をあげて推進した人種差別的な抑圧政策により、最大級の惨劇が生まれたとされる強制収容所である。アウシュヴィッツ第一強制収容所はドイツ占領地のポーランド南部オシエンチム市(ドイツ語名アウシュヴィッツ)に、アウシュヴィッツ第二強制収容所は隣接するブジェジカ村(ドイツ語名ビルケナウ)につくられた。周辺には同様の施設が多数建設されている。ユネスコは二度と同じような過ちが起こらないようにとの願いを込めて、1979年「負の世界遺産」に認定した。一部現存する施設は「ポーランド国立オシエンチム博物館」が管理・公開している。

「第一強制収容所正門」

・入り口には「ARBEIT MACHT FREI(働けば自由になる)」の一文が掲げられている。「B」の文字が逆さまに見えることについて、SSの欺瞞(ぎまん)に対する作者(被収容者)のささやかな抵抗と考える向きもあるが、実際にはこの書体は当時の流行であった。10号棟には人体実験が行われたとされる実験施設が、11号棟には逃亡者や収容所内でのレジスタンス活動を行った者に対して銃殺刑を執行するための「死の壁」があり、そのほかには、裁判所、病院などがあった。収容施設は、女性専用の監房、ソ連兵捕虜専用の監房などといった具合に分けられている。また、アウシュヴィッツ最初のガス室とされる施設がつくられたが、後に強制収容所管理のための施設となった。戦後、ガス室として復元され、一般に公開されている。

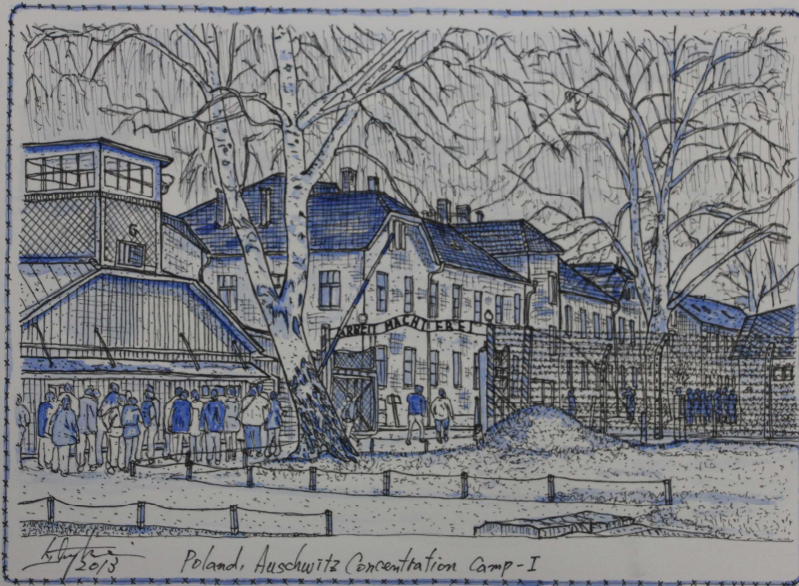
「第二強制収容所ビルケナウ」

被収容者増を補うため、1941年10月、ブジェジカ村に絶滅収容所として問題視される「第二強制収容所ビルケナウ」が開所。総面積は1.75平方キロメートル(東京ドーム約37個分)で、300以上の施設から成る。建設には主にソ連兵捕虜が従事したとされる。ピーク時の1944年には90,000人が収容された。そのほとんどはユダヤ人であり、このほかに主だったものとしてロマ・シンティが挙げられる。

外国人公式ガイド: 中谷剛(なかたにたけし) さま、が「アウシュヴィッツ強制収容所」を案内して頂きました。

Wikipedia情報: <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%AD%E8%B0%B7%E5%89%9B>

・中谷剛さんの真剣で誠実な説明で過去の戦争の悲惨さに付いて学ぶことができ感謝しています、世界には紛争中の国がまだまだあります、世界の子供達の未来の為に早く終わらせるべきです。



第一強制収容所正門を描いています。



第二強制収容所ビルケナウを描いています。

上記の絵はペン(STAEDTLER/Made in Germany)、0.05mm、0.10mm、0.20mm、0.30mmを使用して下書きをし、色づけは青と白で描きました、また強制収容所の内部の様子に付いては、考えさせられることが多すぎて描くことは出来ませんでした。